

## 【KURADASHI.jp会員の皆様へ】

災害はいつどこで発生するかわかりません。日本国内では国による災害救助法の適応がなされた件数は2016年には熊本地震をはじめとした5道県82市町村にのぼり、各地に災害ボランティアセンターが設置され地元の方々には自身も被災された中、支援活動を行っています。

ピースボート災害ボランティアセンターでは、日本国内外において地震、津波、台風などの自然災害が発生した際現地に速やかに専門家を派遣し、被災地での災害支援活動が円滑に行われるよう現地の災害ボランティアセンターのサポートや現場の作業コーディネーターの派遣。ボランティアの派遣、生活再建支援などを行っています。

いつもご支援いただき心より感謝申し上げます。皆様のご支援は被災された方々が一日も早く安心して生活できるように活用させていただきます。今後ともご支援を宜しくお願い致します。

## ハイチ・巨大ハリケーン災害支援活動レポート ～綺麗な水を届けよう～

### ◆支援概要

[実施期間] 2016年10月29日 ~ 2017年2月7日

[活動場所] グランドアンス(Grand`Anse)県  
・ジェレミー(Jeremie)地域

[パートナー] World Cares Center Haiti

[活動内容] 衛生用品配布、飲料水用フィルター配布、  
コレラ対策ワークショップ



## 【活動レポート】

国連世界食糧計画(WFP)によると、ハイチ人の76%は1日2ドル以下の生活を余儀なくされており、56%は1日1ドル以下で生活していると言われています。2010年、マグニチュード7.0の巨大地震がハイチで発生し死者約22万人、被災者約370万人、被災地中心部の建物の8割～9割が倒壊するという、空前の大規模災害でした。医療や衛生施設の問題から、コレラの感染も広範囲に広がってしまいました。インフラ整備がままならない貧困状態が、より被害を拡大させたとはいえます。国際社会の人道支援もあり、ようやく立ち直ろうとしていた2016年10月4日。過去10年間で最大規模のハリケーン(マシュー)が、カリブ海を襲いました。特にハイチでの被害は甚大で、南部海岸地区で壊滅的な被害ができました。一時、約80万人が緊急援助を必要としていました。

PBVでは、発災のニュースを受けて緊急支援募金を立ち上げ、米国のNPO「World Cares Center(WCC)」らと被害調査を進めました。スタッフがハイチ入りし、WCCのメンバーとともに現地調査をおこない、コレラ予防のための衛生用品などの救援物資配布を実施しました。

衛生管理や上下水に関連する設備が破壊されたことによって、飲料水や生活用水の汚染が進みコレラや下痢などの感染症が広がりました。地元のカウンターパートナーや国連機関と情報交換を行いながら、PBVではこれらのニーズに対して衛生的な水の提供と地域の衛生環境向上を目的とする第二次支援を開始しました。

支援活動は、パートナー団体のWCCとクレオール語を話せる地元ハイチの方と協働し、6つの地域でコミュニティの衛生環境向上のためのコレラ対策ワークショップを開催しました。ワークショップでは、地域の方達がコレラ汚染リスクを減らせるように、衛生的な水と石鹸を使った手洗い方法やしっかりとした食材の加熱、トイレの使用方法などを話し合いました。

地域の方達が衛生的な水が得られるように飲料水用フィルターの配布も行いました。この飲料水用フィルターは、細菌やバクテリアなどを99%カットし、10年間使用できるものです。フィルターは、6つの地域で744世帯、学校4校、診療所2箇所に配布しました。このプロジェクトによって、1万人以上の方が10年間、安全な飲料水の供給が保障され、病気になるリスクが軽減されました。68人のコミュニティリーダーには、飲料水用フィルターの配布方法やフィルターの維持や清掃方法、地域と共に行うコレラ予防の方法を伝えました。800人以上の方に対してコレラ予防のための要点が記載されたインフォメーションカードを配布しながら、啓発活動を実施しました。また、フィルターを受け取った方達へのフォローアップも行いました。

PBVとしての支援活動は、一旦終了しましたが、今後の災害の被害を減らすためには、長期的な貧困対策とインフラ整備が必要になります。



- [オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>
- [英語サイト/English site] <http://peaceboat.jp/relief/>